



# 家庭菜園の楽しさを かたの 交野市全域に広げたい



大阪府交野市 高田健治さん

交野自然農法同好会 会長

一般社団法人交野おりひめ未来研究所

交野おりひめ大学 理事

(公財) 自然農法国際研究開発センター

自然農法普及員(菜園担当)

## はじめに

近年、家庭菜園がブームとなり、週末になるとホームセンターの園芸コーナーや種苗店は、ご高齢の方から若い家族まで幅広い層の人で賑わっています。

家庭菜園の醍醐味は「なんと言つても、安全・安心な旬の野菜を自分で育て、収穫して味わい楽しむことです」と



体験視察の様子

語ってくれたのは、大阪府交野市で交野自然農法同好会を立ち上げ「笑いのある情報交換の場」を仲間と楽しんでいる高田健治さんです。今回は、高田さんの手記を元に、ご自身と同好会、交野おひめ大学の活動を通じた、自然農法の輪の広がりをご紹介します。



みかんの収穫体験

## 野菜づくりで人生を楽しもう！

近所の友人から「家庭菜園してみない!？」と誘われ市民農園(6坪)を借り、人生で初めてクワを握ったのが5歳の時でした。それから週末になるのが待ち遠しくて、土を耕し、タネをまいて、水を与え、野菜が収穫できた時はこの上ない喜びで一杯です。野菜の出来栄えを批評する妻。

食卓を囲んで、野菜がおいしいと笑って話す子。そして孫を見て「野菜づくりで人生を楽しもう」と思い始めました。菜園を始めて3年後、500年続く大農家(兼造園業)の近藤勝明氏と出会いました。「農地は公の物、野菜づくりをやりたいなら」と言つて、200坪程畑を整地して下さり、仲間4名で本格的に家庭菜園をスタートしました。



子どもと畑で勉強

### 交野市の概要 (交野市HPより)

交野市は、大阪府と奈良県の県境に位置し、東側と南側が山に囲まれる地形となっており、市域の中央部を天野川が流れています。豊かな実りをもたらす天野川と、印象的な交野山を有する自然豊かな地「交野が原」は、多くの人に愛され、いつしか七夕伝説をはじめとする数々の伝説と結び付けられるようになりました。昔ながらの趣を残す集落と、新たにつくられた住宅地が共存し、自然との調和も大切にする田園都市です。

毎月欠かさず情報交換会に参加している子（左手前）「今日はみんなで草刈りをしたよ！」



兄弟仲良く  
イモ掘り



毎年11月3日は  
収穫祭！  
会員みなでイ  
モ掘りをした後  
は焼きイモ食べ  
放題

## 数多くの学びと実習を経て！

パナソニック（株）を定年退職後、本格的に野菜づくりに挑戦したいと思い、先輩の谷崎利男氏が塾長をされている枚方自然農法塾の塾生になったのが61歳。そこでは、自然農法栽培実施者育英コースを専攻しました。塾の講師は（財）自然農法センター関西地区普及所から職員（戸田英之所長、安野博健氏（当時））が派遣され、午前は座学、午後は畑で栽培実習を行い、毎月1回3年間学びました。この3年の間、自然農法塾以外に各地で開催される健康と食、EM（微生物資材）を活用した作物栽培などに関する講演を数多く聴き、優良事例の畑も数多く見学しました。特に印象に残っ

## 安全・安心な野菜づくりを交野市に広げたい！

そして、農薬の怖さを知り、安全・安心な野菜づくりを学ぶ内に、「家庭菜園を志す人に少しでも役に立ちたい。「楽しい憩いの場を提供できる仕組み」を交野市にも作りたい。自然農法を広げたい」との想いが強くなっ

ていることは、EMの開発者比嘉照夫教授のプライベート農園（青空宮殿）で、比嘉教授からバナナと野菜の栽培についてEM活用の効果や大根のばら播き栽培等の説明を受け感動したこと。また、農家の体験話「親を農薬の害で亡くされ、子供がアトピーになったことをきっかけに、農薬や化学肥料を使わない野菜づくりに挑戦し、みごとに大臣賞を受賞して人生が大きく変わった農家さんの話」を聞いたこと。田中佳医学博士の「健康の秘訣は農業にあり」というテーマの座学で学んだ、化学肥料を使って栽培した野菜とEM活用した土で栽培した野菜との比較差の事例等です。

ていき、2012年、パナソニック松愛会（※）交野支部の協賛を得て「交野自然農法同好会」を立ち上げました。会員数20名で農薬や化学肥料を使用しない野菜づくりに挑戦する『笑いのある情報交換の場』として座学



重機を使って長さ 100 m の溝掘り

竹の土留めを利用して排水溝づくり



会員それぞれの  
能力を活かして  
圃場の環境整備



山から大きな竹を運び出し、加工して土留めに使用

共用の農具などを収納するための小屋づくりもみんなで



2014年、交野市が主体となつて市民大学として「交野おひめ大学」が設立されました。交

活動を知ってもらつたために

1年後は学びを实践する体験農地1000坪程を農家の近藤勝明氏、中堅啓氏なかのひさのからご支援いただき、個人や家族が楽しめる体験菜園（区画）やサツマイモ等を共同栽培する区画を確保することができました。たまたまご支援いただいた農地が田んぼであったことから水はけが悪く、環境整備として会員の力を

野らしい学科として、お酒学科 そば学科 しぜん農法学科、お手紙学科等が開設され、しぜん農法

借りて重機で排水溝を設置したり、道具や資材を保管する小屋を作りました。皆さんが人生で培ってきた能力が最大限に発揮され、苦労はありましたが、お互いのワザを学び合いながら、ワイワイ楽しく作業することができ、みなさんの真心が徐々に形になりました！

人との縁やみなさんの真心が形になった！

からスタートしました。当初、資金的な困難も想定されましたが、行政からは公共施設の会議室や資料のコピー機使用の支援をいただき、また、教材・DVD・農具（草刈機、一輪車、クワ、スコップ等）はパナソニック松愛会様から社会貢献活動団体として資金援助をいただきスタートすることができました。現在は、初級・中級・上級・プランター！果樹の5コースがあります。

※ パナソニック松愛会  
パナソニック（株）（旧松下電器）の定年退職者等で構成された任意の団体で、パナソニックグループで共に永年働いた仲間が集いです。  
目的・存在意義は、①心豊かに健やかな意義ある人生づくりを共有する団体…友愛、②お互いに喜びや楽しみを分かち合える団体…親睦、③地域・社会と共に歩む団体…貢献、として地域で活動しています。



若い親子も参加して  
お互いに情報交換



トマトの栽培コンテスト  
「T1グランプリ」金賞の表彰



座学の様子



環境フェスタ in 交野にブース出展



イモ掘り体験を楽しむ幼稚園児たち

学科の運営を交野自然農法同好会が担当する事になりました。「しぜん農法」という名称は、小学生にもわかる表現のほうがより親しみがもてると思いい平仮名を使用しました。

この学科の目的は、公益財団法人自然農法国際研究開発センターが発行した各種テキストや資料を元に仲間との「笑いのある情報交換の場」であり、自然豊かな交野の田畑を利用し、仲間と一緒に野菜別の栽培方法などの知識習得のほか、化学肥料や農薬を使用せず、微生物を活用した自然農法栽培に挑戦し、自分で育てた旬の野菜を収穫して食べる楽しみを体感いただくとともに、しぜん農法ファンを増やし、食の安全・安心を地域に広めていく学科です。また、幼稚園児のサツマイモの植付

### 会員の笑顔が力の源！

諸活動の中では大変なこともあります。会員の方から「同好会に入会してよかった」、「農薬や化学肥料を使わなくても、野菜ができる情報は大変ありがたい」、「美味しい野菜ができて感動して

け・収穫祭の開催や環境フェスタへのブース出展等も行っています。さらに会員さんの栽培コンテスト「T1グランプリ」で金・銀・銅賞を表彰して楽しんでいきます。

2018年現在、会員数は55名で、毎月1回第2土曜日の午前に情報交換をしています。若い夫婦から熟年夫婦まで、交野市以外にも、近隣の京都府、大阪市京橋、枚方市、寝屋川市からの参加があります。「先生」はいません。しいて言えば経験者や先輩が先生です。私は2016年4月に、公益財団法人自然農法国際研究開発センターから自然農法普及員（菜園担当）として委嘱されたので、その肩書きも大いに役に立ち、自信をもって自然農法の普及に努めています。

います（スーパの味と全然違う）、「月1回の情報交換会が楽しみです」、「1年間の大地、家族に感謝するイベント、収穫祭（サツマイモ掘り）を孫と楽しみにしています」といった、たくさんの方が



## 交野自然農法 同好会 2019年度 会員募集



定員に到達後は、翌年度募集での入会になります。

協賛：パナソニック松愛会交野支部 連携：交野おりひめ大学  
同好会のホームページ：<https://sites.google.com/site/orihimekatanoshizenhou/home>



- ・ **安心・安全な野菜作りに同好会を活用しませんか？**  
- 情報交換会開催(第2土曜)、一回参加のお試しコース有り
- ・ **希望者は体験栽培地での実習を2年間実施(先着順)**  
- 初めての野菜栽培を習熟会員が日々サポート
- ・ **微生物(EMなど)を使った有機栽培の土づくり**  
EM™は、EM研究機構の登録商標で、乳酸菌・酵母・光合成細菌を主体に、有用な微生物を共生させた微生物資材  
- 野菜くず等の有機物+微生物で、びっくりするほど美味しい野菜

問合せ先：高田健治 090-5804-3602

<https://sites.google.com/site/orihimekatanoshizenhou/inq>



詳細は交野自然農法同好会ホームページまで  
<https://sites.google.com/site/orihimekatanoshizenhou/home>

## おりひめ大学 しぜん農法学科 2018年度カリキュラム

月日	内容
1月13日	オリエンテーション、自然農法とは (p.120)
2月10日	家庭菜園のすすめ (p.10) 微生物の役割 (p.98)
3月3日	EMボカシづくり体験
3月10日	畑の準備 (p.24)
4月14日	野菜別栽培方法 (p.55) (ナス・トマト・キュウリ)
5月12日	野菜別栽培方法 (p.68) (スイカ・カボチャ)
6月9日	病害虫の対策基礎知識 (p.43)
7月14日	病気別伝染病防除ポイント (p.44)
9月8日	野菜別栽培方法 (p.80) (白菜・キャベツ・大根)
10月6日	追肥のタイミング
10月21日	EMボカシづくり体験
11月4日	会員様の体験報告会(各コース代表者)
12月2日	外部講師の講演会

※ 数字は『自然農法 家庭菜園の手引き』関連ページ



コース別座学の様子



EMボカシづくり体験

テキストとして使われている当センター発行の『自然農法家庭菜園の手引き』→



### 環境フェスタin交野を通して市民へ発信！

たい声から元気をいただいて、さらに頑張ろうという励みになっています。そして、毎月開催する

例会でいろいろな体験発表を聞くときは何よりも嬉しい気持ちになります。

本年13回目を迎えた、かたの環境フェスタ市民会議が主催する「環境フェスタin交野」に初出展し、自然農法同好会の活動をDVDで放映してPRし、また、(株)EM研究所からEM活性液200本をご協力いただ

き使用説明書を添えて無料配布しました。自然農法と環境の両面から関心ある市民のみなさんに知っていただくと共に、菜園や環境について交流するよい機会となりました。

### 楽しさの輪をさらに広げてゆきたい

同好会を立ち上げて、来年7年目を迎えます。毎年約2割の方が家庭の事情などで卒業され、新しく2割の方が入会され、毎年50名前後でスタートしています。累計すると約200名の方が、自然農法の輪に携わっています。

今後は、さらに活動が活発になるように、おりひめ大学と連携を密にして家庭菜園で自然農法に挑戦する方のお手伝いができるようにより一層努めていきます。お近くにお越しの折には、是非、私たちの菜園にお立ち寄りください。皆様のお越しを同好会一同楽しみにしております。

これも、立ち上げ当時から、7名(瀬戸口氏、葉坂氏、鈴木氏、三宅氏、丸尾氏、片寄氏、高田)で特技を生かした運営体制を作り、月1回の役員会では「会員さんがどのような情報が欲しいのか」「そうすることは会員さ

(鈴木晃)